

# 平成30年度 第1回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 平成30年4月19日（木）  
午後3時～  
会 場 人材かがやきセンター研修室  
(宇都宮市中央生涯学習センター5階)

## 次 第

### 1 開 会

### 2 報 告

- (1) 宇都宮市民大学実施要綱の改正について・・・・・・・・・・ 資料1

### 3 議 題

- (1) 役員を選出について（会長）  
(2) 平成29年度宇都宮市民大学事業報告について・・・・・・・・ 資料2  
(3) 平成29年度宇都宮市民大学収支決算について ・・・・・・・・ 資料3  
(4) 平成30年度宇都宮市民大学事業計画（案）について・・・ 資料4  
(5) 平成30年度宇都宮市民大学収支予算（案）について ・・・ 資料5

### 4 その 他

### 5 閉 会

## 宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間  
(平成28年9月1日～平成30年8月31日)

平成30年4月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
1	阿部 好子 <small>あべ よしこ</small>	宇都宮大学 企画広報部企画広報課長
2	川島 育郎 <small>かわしま やすお</small>	株式会社栃木放送 報道制作局長
○ 3	川本 清 <small>かわもと きよし</small>	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
4	小太刀 忠治 <small>こだち ちゅうじ</small>	宇都宮共和大学 事務局長
5	小林 治郎 <small>こばやし じろう</small>	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長
◇ 6	小針 協子 <small>こばり きょうこ</small>	とちぎボランティアNPOセンターぽぽら コーディネートリーダー
◇ 7	野中 正知 <small>のなか まさとも</small>	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
8	長谷川 京子 <small>はせがわ きょうこ</small>	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
9	御子貝 久男 <small>みこがい ひさお</small>	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
10	山田 卓徳 <small>やまだ たかのり</small>	作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 事務局長

(五十音順)

◎ 会長      ○ 副会長      ◇ 監事

## 宇都宮市民大学実施要綱

## (目的)

第1条 市民の生涯学習における高度で専門的な学習要求に応え、学習機会を提供することにより、社会の変化に対応した豊かな市民生活に資するとともに、学習の成果を地域に還元し、地域社会の一員として自覚し、自立した市民を育てていくため、宇都宮市民大学（以下「市民大学」という。）を開設する。

## (理念)

第2条 市民大学は、次に掲げる事項を理念として運営する。

- (1) 宇都宮市地域教育推進計画（うつのみや地域教育プラン）の基本理念に基づき、市民大学として高次かつ幅広い視点から学びの場を市民に提供する。
- (2) 社会の変化や要請、地域の特性や文化に即したテーマや課題を発掘し、まちづくりや人づくりにつながる多様な学習機会を提供する。
- (3) 市民の学習意欲の高い専門的な分野について、系統的に学びの場を提供し、市民同士のネットワーク作りや自主的な活動につながる場とする。
- (4) 市民に開かれ、市民が支える大学運営を目指し、企画、運営などを担うボランティアスタッフを積極的に活用し、人材育成の場とする。

## (事業)

第3条 市民大学は、次の事業を行う。

- (1) 専門講座の開催
- (2) その他必要な講座の開催

## (運営組織)

第4条 市民大学の運営にあたり、宇都宮市民大学学長、宇都宮市民大学運営協議会（以下「運営協議会」という。）及び事務局を置く。

- 2 学長は、市長をもって充て、市民大学を代表する。
- 3 学長は、次の職務を行う。
  - (1) 受講者の決定
  - (2) 修了証書の授与
  - (3) その他必要な事項

- 4 運営協議会は、市民大学の事業を円滑かつ効果的に運営する。
- 5 事務局は、教育委員会事務局生涯学習課に置き、市民大学の事務を処理する。
- 6 事務局に事務局長その他必要な職員を置き、市民大学運営協議会長がこれを選任する。

(対象者)

第5条 市民大学の講座の受講対象者は、以下のとおりとする。

- (1) 市内に住所を有する者
- (2) 市内に通勤する者又は市内の学校に通学する者
- (3) その他、運営協議会が適当と認める者

(募集方法)

第6条 受講者の募集方法は、一般公募を原則とする。

- 2 定員を超える応募があった場合には抽選とし、事務局により公正に決定する。

(受講料)

第7条 受講者は、別に定める受講料を納付するものとする。

(経費)

第8条 市民大学の運営に必要な経費は、宇都宮市からの交付金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第9条 市民大学の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年9月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から適用する。

## 宇都宮市民大学実施要綱の一部改正

### 1 課題

宇都宮地域教育推進計画「うつのみや地域教育プラン」は5年毎に改定が行われるため、その都度宇都宮市民大学要綱の改定が必要となる。

### 2 対応

「うつのみや地域教育プラン」の一部を抜粋し要綱に記載しているが、一部抜粋をしなくとも宇都宮市民大学の運営方針に変わりがないことや、宇都宮地域教育推進計画「うつのみや地域教育プラン」全体と連動していることから一部抜粋ではなく計画名のみを標記することとする。

### 3 新旧対照表

改正前	改正後
第2条 (1) 「うつのみや地域教育プラン」の基本理念である「学びを通して、豊かな人間性と人との絆を育み、地域ぐるみにより、教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。」に基づき、市民大学として高次かつ幅広い視点から学びの場を市民に提供する。	第2条 (1) <u>宇都宮市地域教育推進計画（うつのみや地域教育プラン）</u> の基本理念に基づき、市民大学として高次かつ幅広い視点から学びの場を市民に提供する。

## 平成 29 年度宇都宮市民大学事業報告について

平成 29 年度は、公開講座（前期・後期各 1 講座）、専門講座を 12 講座（前期 6 講座、後期 6 講座）開催した。

開催期間は、平成 29 年 5 月 26 日（金）～12 月 22 日（金）、受講者数は公開講座 323 名、専門講座 616 名で専門講座の修了者は 518 名（修了率 84.1%）となった。

### 1 公開講座

「別紙 1」のとおり

### 2 専門講座

「別紙 2」「別紙 3」のとおり

### 3 総評と課題

受講申し込み期間が 2 週間と短い期間にも関わらず、前期・後期通して全体の定員を上回る申し込み希望があり、受講生の各専門講座の修了率も全体で 84%と高く、受講者アンケートにおいても成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が全体の 93%を占めるなど受講生にとって満足いく講座を実施することができた。

平成 29 年度から取り組んだ「受講者の決定方法見直し」により、新規申込者を優先的に受講決定することで新規申込者の把握ができた。これにより、新規申込者が、前期定員 310 名に対し 73 名（23.5%）、後期定員 340 名に対し 56 名（16.5%）と全体で 19.8%であることが分かった。今後は、開催曜日や時間帯を工夫することや、引き続き個人の要望に基づく趣味・教養的な学びを提供するとともに、現代的な課題や旬の話題を講座に取り入れるなど、幅広い学習内容で講座を実施することにより、受講者満足度の向上や更なる新規受講者の獲得を図っていく。

また、前期・後期の専門講座開始前に実施する、合同開講式・公開講座については、受講生が一同に会することで各専門講座受講生間の交流や向学心などの意識啓発にもなるなど評価されている。一方で、専門講座毎に受講日時等が異なる中で受講専門講座と連動しない日時の合同開講式への出席が必要になることや、公開講座のテーマが受講する専門講座と異なることから、合同開講式・公開講座への出席を希望しない受講生もいる（出席数/専門講座受講者数：前期 50.5%、後期 54.4%）。現在は、高等教育機関と連携を図りながら公開講座を実施しているが、連携する高等教育機関においては、実施時期に制限があるため繁忙時期が重なることから、テーマや講師の選定及び実施会場受入れにも苦慮しており、連携手法の見直しが求められている。

今後は合同開講式のあり方や、公開講座の実施方法を、高等教育機関との連携手法も含め検討していく必要がある。

		開催日時・会場・受講人数	実施内容	講座の評価	(参考) 受講者の感想・意見
前 期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催日時 平成29年5月26日(金) 午後2時～午後4時</li> <li>会場 文星芸術大学 第1キャンパス 南校舎棟2階 大講義室</li> <li>受講者数 157名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育長 水越 久夫 文星芸術大学 学長 上野 憲示 氏</li> <li>受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より 受講者代表2名へ交付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者のアンケートでは、8割以上が「とても意義がありよかった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。</li> <li>受講者が一堂に会する唯一の機会であることや、会場を共催事業として文星芸術大学にて実施したことは、受講者の学習意欲の高揚や満足度の向上に繋がったものと考察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生300名超と聞いて、好奇心を燃やしている高齢者がいることが分かり、学ぶ仲間がたくさんいることを知り励みになった。</li> <li>物事、始まりがあって、終わりがあるように、開講式「よーし！がんばるぞ！」と気持ちが引き締まった。</li> <li>若い人も参加していてよかった。</li> <li>場所が遠すぎる。各専門講座で開講式を行うか、または、開講式、公開講座はなくてもいいのではと思う。</li> </ul>
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ マンガ家生活62年を越えて～母はマンガが大っ嫌いだった！！～</li> <li>講師 文星芸術大学 美術学部 教授 ちば てつや 氏</li> <li>講義内容 ちばてつや氏自らが、自身の生い立ちや生き方などについて語るとともに、イラストを描くにあたって手軽にできる表現法など、実践を交えながら、マンガの魅力を伝えた講座。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートでは、「とてもよかった」「どちらかといえばよかった」の意見が95%と、非常に満足度の高い講座であった。</li> <li>特に、プロのマンガ家である講師が、実際に描いている姿を見せながら講演をしてくださり、これまでにはなく、受講者の興味を引く内容となった。受講者からは「人生の豊かさ、心の広さを学んだ」「面白かった」「人生の励みになった」との声が多く寄せられ、本講座の目的である人生を前向きに楽しむきっかけづくりに繋がったものと考察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちばてつや先生の半生を、イラストで描きながら楽しく話してくださったので分かりやすかった。マンガの表現方法の多様性なども理解できた。</li> <li>講師の人柄がよく出ていた。大学で学生を指導する姿勢に共感した。</li> <li>実話が面白かった。講師との時代背景が同じで懐かしかった</li> <li>作家として人生の柱は親の影響が大きいこと、考えさせられました。若い人がこのような機会の出会いがあると良いと思う。</li> </ul>
後 期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催日時 平成29年10月23日(月) 午後2時～午後4時</li> <li>会場 宇都宮市役所 14階大会議室</li> <li>受講者数 166名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育長 水越 久夫 作新学院大学 学長 渡辺 弘 氏</li> <li>来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏</li> <li>受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より 受講者代表2名へ交付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者のアンケートでは、7割以上が「とても意義があった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。</li> <li>作新学院大学の共催のもと、専門講座実施会場(中央生涯学習センター)近隣の宇都宮市役所で開催したことは、受講者の学習意欲の高揚及び、満足度の向上に繋がったものと考察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所が会場で交通の便が良かった。今後も市役所での実施を希望する。</li> <li>一同に会して顔を合わせることで他の受講生とのコミュニケーションに繋がると思う。</li> <li>合同開講式の必要性が感じられない。各専門講座の初回に開講式を行えばいいのでは。</li> </ul>
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ 私たちが若者に伝えられること～いきいき宇都宮Lifeのススメ～</li> <li>講師 作新学院大学女子短期大学部 教授 西田 直樹 氏</li> <li>講義内容 現代の若者の現状を踏まえ、私たちが若者に与えられるような「これからの大人の生き方」について、生涯学習の視点から考える講座。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートでは、「とても良かった」「どちらかといえば良かった」との意見が8割弱と、満足度の高い講座であった。</li> <li>現代の日本の若者が世界と比較して自己肯定感が低い傾向にあることや未知のことに取り組む意欲を持ってない傾向にあること等が示された。</li> <li>大人が若者に対してできることについて、受講者がシニア世代中心であることを踏まえ、シニア世代が共感しやすい内容で示唆されたことから、受講者アンケートの「若者との交流を持つ必要を痛感」との意見の増加に繋がったものと考察される。</li> <li>講師が作新学院大学で教鞭を執る「とちぎ学」の体験版として宇都宮の歴史について、昔の白黒写真からカラー写真へと復元した写真とともに紹介され、視覚的にも知的好奇心を満たされた受講者も多いのではないかと考察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い力に期待したい。若者と交流することを学んだ。</li> <li>「とちぎ学」という言葉をはじめて聞いて新鮮な気持ちになった。「とちぎ学」についてもっと知りたい。</li> <li>歴史と情報の共有を、これからは子どもや孫に伝えたい。久しぶりの感動。</li> <li>全員に共通する意義ある講座は困難であり、公開講座は必要ないと思う。</li> </ul>

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価
I	宇都宮市の近現代 (全7回)	宇都宮市文化財保護審議会委員 大嶽 浩良 氏	6/2～ 7/14	(50) [114] 51	49 [43] 87.8%	市民大学の受講者に人気の高い歴史的要素を取り入れた講座で、定員の2倍を超える申込みがあった。明治期から終戦にいたる宇都宮の近現代史を中心に学ぶことで、昭和時代の宇都宮の街の変遷を知ることができた。また、戦時中の女学生が軍需工場で働いた手記からは、戦争について改めて考える機会となった。
II	世界を見る、世界が見る、宇都宮 ～踏み出そう！ 国際社会人への第一歩～ (全7回)	NPO法人宇都宮市国際交流協会 理事 丸山 秀彦 氏 講師 マイエル・ギヨム 氏 講師 柳田 文 氏 宇都宮大学 国際学部 教授 松金 公正 氏 准教授 スエヨシ アナ 氏 宇都宮大学 留学生・国際交流センター 准教授 湯本 浩之 氏 宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授 中村 祐司 氏	5/30～ 7/11	(50) [49] 45	42 [31] 76.6%	毎回異なる国をテーマに、歴史や文化、国民生活などを学び、宇都宮市に居住する外国人と実際に触れ合うことや、ワークショップによる受講者同士のコミュニケーションを図ることで、知識を深め国際理解に繋がった。
III	日本刀の魅力を探る ～世界が認めた究極の美～ (全7回)	日本美術刀剣保存協会 栃木県支部 参議 刀匠 加藤 慎平 氏 刀装・刀装具 小谷 肇 氏 刀剣 金井 弘 氏 研師 枝松 孝治 氏	5/30～ 7/11	(50) [58] 50	50 [40] 80.0%	刀匠による製作過程の実演、日本刀の歴史、刀装、鑑賞、鍛冶場見学、研師の実演などを学んだ。なかでも鍛冶場見学や、日本刀を実際に手にして鑑賞するという貴重な体験ができたことは受講者にとっても有意義だった。伝統の技と技術が匠の手によって継承され、美術品としての日本刀を再認識することができた。
III	円空仏の微笑みに魅せられて ～円空に出会う旅～ (全5回)	文星芸術大学 美術学部 准教授 大澤 慶子 氏 興雲律院 住職 中川 光熹 師	6/1～ 6/29	(50) [168] 51	48 [44] 91.7%	全国に残る円空仏について学んだ後、日光を訪ね非公開の円空仏を見学したことで、それまでに学んだ円空仏の魅力に十分触れることができた。また、図書館所蔵の円空仏の写真集などを展示したことで、さらに円空仏の魅力を知る機会となった。
III	最新の宇宙研究 ～宇宙138億年を旅する～ (全7回)	宇都宮大学 名誉教授 田原 博人 氏 国立天文台 名誉教授 海部 宣男 氏 NPO法人「宇宙こども未来の会」会長 JAXA(宇宙航空研究開発機構) 名誉教授 平林 久 氏	6/5～ 7/24	(60) [101] 80	75 [65] 86.6%	最新の望遠鏡について、日本が世界に誇れる観測技術の高さについて、映像を交えわかりやすく説明したいという講師の想いが資料にも反映されていた。受講者の質問が毎回多く、これからは益々進化し続ける天文学の技術を市民大学の講座で学ぶ機会が出来たことは、高度な専門的知識の学びに繋がった。
III	アートがひらく多様な世界 (全6回) 〔文星芸術大学連携講座〕	文星芸術大学 学長 上野 憲示 氏 文星芸術大学 美術学部 教授 多田 夏雄 氏 教授 田中 誠一 氏 准教授 吉田 利雄 氏 准教授 中村 寿生 氏 文星芸術大学 地域連携センター センター長 長島 重夫 氏	6/5～ 7/10	(50) [49] 47	47 [41] 87.2%	日本画、洋画、彫刻など、様々な分野の芸術作品を間近で鑑賞し、日本の伝統的な画材に直接触れたり、大学生による日光二荒山神社天井画の制作など、アート作品の制作意図や過程などを知り、アートへの造詣が深まるとともに大学の地域貢献活動を知る機会となった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	310人	【総合的な評価】 6講座中4講座について定員を超える申込みがあり、5講座において修了率は80%以上であった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の95%を占めた。 これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	
			応募者数	539人		
			受講決定数(開講前)	324人		
			受講者数(開講後)	311人		
			修了者数	264人		
			修了率(修了者/受講者)	84.9%		

(参考)受講者の感想・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮市に生まれ育ったが知らないことも多く、とても勉強になった。</li> <li>今回、宇都宮の近現代を学び、街中を歩いても、今まで気づかなかった歴史的に意味があるものが目に付くようになった。</li> <li>戦後の発展がもたらした問題にも注視し、これから考えていく力になった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>フランスの話を聞いて、慣習等が理解できた。</li> <li>外国のことが少しわかって、世界観が少し変わった。</li> <li>外国人講師や、日本人講師による外国で生活した実体験の話は良かった。</li> <li>中国・フランス・ネパールと各国の歴史や現状と日本の関わり等を聞き、改めて日本の良さや平和のありがたさを感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>本物の「人」「実物」「やり方」を五感で感じ、「本」「話」を超える理解ができた。</li> <li>真剣を手にとって、見られたときは感動した。</li> <li>刀匠の鍛冶場を見学して、日本刀が完成するまでの工程の一端を見られ感動した。</li> <li>文化的価値、技術を継承していくことが重要だと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>荒削りの円空像が好きだったが、加えて微笑みの美を知った。</li> <li>個人的には出来ない、実物(円空仏)を見るなど貴重な体験ができた。</li> <li>講師による、円空の胸の中を聞いて感動した。</li> <li>文化財の取扱いとして、写真禁止など、注意事項を徹底してもらいたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>かなり専門的な内容でしたが、最新の宇宙を聞いて満足でした。</li> <li>「解らない事」を解明する繰り返しの話を聞き、宇宙の奥深さを再認識した。</li> <li>世界への日本の貢献、日本の研究水準に講師の方々が果たして来た様子を肌で感じる事ができました。</li> <li>難しかったが、講師の先生が工夫してくださり、解らないながらも面白かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の美術の見方、また、アニメーションマンガの見方が変わった。</li> <li>芸術に必要な画材を見せていただいたことがうれしかった。</li> <li>日本画の画材や技法の説明は良かった。日本画の画材技法を聞いて見方が変わった。</li> <li>学生が寺院の天井画を描いたのは驚いた。</li> </ul>



コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価
I	修復師から見た日光の社寺 ～日本の宝を後世に伝える 伝統職人の技～ (全6回)	日光市教育委員会事務局文化財課 副参事 鈴木 泰浩 氏 金沢金箔伝統技術保存会 会長 松村 謙一 氏 岩手県浄法寺漆生産組合 組合長 泉山 義夫 氏 株式会社 喜屋 代表取締役 松下 満 氏 公益財団法人 日光社寺文化財保存会 技師長・工事監督 浅尾氏, 漆塗管理技術者佐藤氏, 上席主任技師原田氏, 主任技師高橋氏, 彩色主任技能士 手塚氏 株式会社小西美術工芸社 代表取締役社長 デービッド・アトキンソン 氏	10/28～ 12/9	(80) [110] 80	79 [59] 74.7%	日光東照宮や輪王寺等で平成の大修理が行われている中、修復について学ぶタイムリーな講座であった。修復に携わる各専門分野の技術者による講話から、文化財を後世に繋いで行くための匠の技や修復に懸ける思いを学ぶことで仕事を理解することができた。また、修復現場を見学する館外学習では通常では足を踏み入れることができない箇所を案内していただき、知識を更に深めることができた。デービッド・アトキンソン氏の講話では、改めて世界遺産のある栃木県民としての誇りを再認識する機会となった。
I	「秀吉の知略！家康の戦略！」 ～秀吉の宇都宮・会津仕置から 家康の小山評定・関ヶ原の戦いまで～ (全7回)	大田原市黒羽芭蕉の館 学芸員 新井 敦史 氏 栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 株式会社 産経新聞社 宇都宮支局 次長 水野 拓昌 氏 小山市立博物館 学芸員 尾上 仁美 氏	10/30～ 12/11	(50) [171] 50	49 [42] 85.7%	秀吉死後の政務混乱期を、宇都宮氏の改易と地元の武将たちの動向を通して学ぶことで、新たな郷土の歴史を知ることができた。館外学習では、家康の小山評定跡地、真田親子の犬伏の別れの地を訪ね、戦国の世の武将たちの心情に思いを馳せ、歴史を身近に感じる機会となった。
I	ぎょうざ・いちごに続け Only1への挑戦 (全5回)	株式会社あしぎん総合研究所 チーフエコノミスト 豊田 晃 氏 非営利活動法人とちぎ未来文庫 代表理事 五十嵐 幸子 氏 株式会社ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長 松本 謙 氏 宇都宮大学 農学部 准教授 柏崎 勝 氏 株式会社日本経済新聞社 宇都宮支局長 花淵 敏 氏	10/31～ 11/28	(50) [27] 27	24 [18] 75.0%	「経済」という共通テーマのもと、統計資料から見られる宇都宮の特徴、宇都宮の象徴として全国にPRするきっかけとなった餃子による町おこしやイチゴを世界へ発信する取組事例、宇都宮から始める地方活性化や今後の課題など、毎回異なる切り口から、宇都宮の経済についての知識や理解を深めながら、同時に宇都宮がもつ魅力についても再発見することができる有意義な機会となった。
II	どこまで進化する人工知能(AI) ～人工知能(AI)は 人間の頭脳を超えるのか～ (全6回)	宇都宮大学工学部 機械知能工学専攻 教授 尾崎 功一 氏 教授 横田 和隆 氏 准教授 星野 智史 氏 帝京大学理工学部 情報電子工学科 講師 山根 健 氏 株式会社ViAR&E 代表取締役 市浦 茂 氏	11/10～ 12/22	(50) [65] 65	60 [51] 85.0%	スマートフォンや車の自動運転など日常の暮らしに結びつく最新技術を学び、今後より開発が進む中で使用する側の倫理の問題等に触れる内容となった。宇都宮大学工学部での見学は、講師や研究に携わる学生により、実際に開発する現場で具体的な技術説明や体験から学ぶことができた。進化が著しい人工知能(AI)の最先端技術を知る有意義な機会となった。
III	担当記者が見た司馬遼太郎さん ～街道についてゆく～ (全5回)	株式会社朝日新聞出版 週刊朝日 編集委員 村井 重俊 氏	10/31～ 11/28	(70) [122] 80	78 [70] 89.7%	「街道をゆく」に同行した編集者を迎え、素顔の「司馬遼太郎」を語ってもらった。旅先での司馬氏との会話などから、司馬氏の気さくな一面や日本人への思いを知り、司馬氏の著作を読み直したり、さらに新たな著作を読み、様々な土地や日本について考える機会となった。
III	「キラッと輝く宇都宮Life」 ～毎日を笑顔にする、 さわやか学習メニュー～(全5回) [作新学院大学連携講座]	作新学院大学女子短期大学部 教授 青木 章彦 氏 講師 宍戸 良子 氏 経営学部スポーツマネジメント学科 講師 菅谷 美沙都 氏 准教授 関根 正敏 氏	11/6～ 12/4	(40) [17] 17	15 [14] 93.9%	「魅力的な生活スタイル」をテーマに、地域の自然保護に協力できることを学び郷土愛醸成や、家庭でできる運動の実習を行い生涯スポーツに取り組むスキルの習得、おもちや作りの実習を行いや孫育ての参考となるような情報の体得など有意義な機会となった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	340人	【総合的な評価】 6講座中4講座について定員を超える申込みがあったことから2講座は講師と相談し定員を増やして受け入れた。また、4講座において修了率は80%以上であり、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の91%を占めた。これらの結果を踏まえ、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	
			応募者数	512人		
			受講決定数(開講前)	319人		
			受講者数(開講後)	305人		
			修了者数	254人		
			修了率(修了者/受講者)	83.3%		

(参考)受講者の感想・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的背景や携わっている専門家の話を聞いて有意義だった。</li> <li>・ 伝統を継承する難しさを感じた。</li> <li>・ スペシャリストの話の講義を今後も他分野で期待する。</li> <li>・ 館外学習での現地見学は普段入れない所を見学でき貴重な経験だった。</li> <li>・ 学んだことにより文化財を見るポイントが変わった。</li> <li>・ アトキンソン氏の講話は視点が新鮮で素晴らしかった。</li> <li>・ 多くの技術者の手を経て守られていることに感動した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の住んでいる近くで歴史(重要な)が動いていたと思うとますます歴史は楽しいと思った。</li> <li>・ 郷土の宇都宮氏と東北地方との関わりを通して秀吉、家康のそれぞれの知略、戦略が面白かった。</li> <li>・ 戦後の発展がもたらした問題等、これからを考えていく力になった。</li> <li>・ 宇都宮の地区の特性を考えて、地区がより良くなるように活動していきたいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回興味のあるテーマであり楽しく学べた。特に、イチゴの輸出については、以前県においてテスト輸送した経験があり、今回のように科学的データに基づく輸出についてはすばらしいと思った。</li> <li>・ 様々なトピックから自分の地域をみつめることができよかった。現役世代にも、とても役に立つ話だった。</li> <li>・ 想像以上に内容が充実していた。なかなか会えない方々から、2時間にわたり詳しい話を聞くことができ、大変勉強になった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本のレベルと海外のレベル、今後の方向について各先生方の見解をきくことが出来た。</li> <li>・ 地域のITベンチャー企業と積極的に連携して宇都宮発イノベーションを期待する。</li> <li>・ 高齢化に伴い、介護を受けるようになり家族への負担・施設介護士の負担軽減の視点で学ぶことができ、介護ロボットの将来の可能性について興味深かった。</li> <li>・ 宇都宮大学で先端技術の見学に参加できて良かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 司馬遼太郎の作品は本を読めばわかるけれども、普段の取材におけるエピソードを、当時番記者だった講師から生きいきと聞くことができて良かった。</li> <li>・ 司馬遼太郎の違った一面にふれることにより、興味がわき、未読の本を読んでみたい気持ちになった。記者の一面も知るきっかけになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇都宮の環境について学習できた。</li> <li>・ 若い先生の講座が多く、新鮮で楽しく勉強できた。</li> <li>・ 生涯スポーツは、身近で、いつまでも、楽しく健康にできることを学んだ。</li> </ul>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規受講者の取り込み 新たな受講者を取り込むため、市民大学への関心を高める講座設定や広報の方法を検討するなどの仕掛けが必要である。</li> <li>・ 幅広い学習内容での講座の実施 市民の知的好奇心を満たし、生活に潤いや生きがいを与える講座を開催するためには、受講者ニーズの高い歴史や文学等の趣味教養的な講座のほか、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座を実施していく必要がある。</li> </ul>

## 平成29年度宇都宮市民大学収支決算書

## 収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,934,000	1,934,000	0	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	2,255,000	2,193,500	△ 61,500	
3 雑収入	1 雑収入	250	11	△ 239	預金利子
合 計		4,189,250	4,127,511	△ 61,739	

## 支出の部

(単位:円)

款	項(目)	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 総務費		341,600	312,137	△ 29,463	
	1 報償費	303,600	266,800	△ 36,800	委員謝金
	2 需用費	13,000	13,039	39	会議茶代等
	3 役務費	25,000	32,298	7,298	開催通知郵送料等
2 事業費		3,847,650	3,815,374	△ 32,276	
	1 報償費	2,306,000	2,126,540	△ 179,460	講座講師謝金
	2 需用費	542,350	832,445	290,095	
	①消耗品費等	250,550	522,004	271,454	講座紙代, スピーカー等
	②食糧費	30,000	31,673	1,673	講師茶代等
	③印刷製本費	251,800	251,768	△ 32	パンフレット作成等
	④修繕料	10,000	27,000	17,000	機器修繕料
	3 役務費	184,900	279,809	94,909	
	①通信運搬費	150,000	254,609	104,609	募集パンフレット郵送料等
	②手数料	29,200	21,600	△ 7,600	講師謝金振込手数料等
	③保険料	5,700	3,600	△ 2,100	講師・Vスタッフ保険代
	5 使用料	464,400	321,698	△ 142,702	館外学習貸切バス料金等
	6 負担金, 補助 及び交付金	350,000	254,882	△ 95,118	専門講座企画運営費
合 計		4,189,250	4,127,511	△ 61,739	

決算収入額	4,127,511 円
決算支出額	4,127,511 円
差 引	0 円

## 監 査 報 告 書


宇都宮市民大学運営協議会設置要領第7条第2項の規定に基づき、同協議会の収支決算について、関係諸帳簿及び証拠書類等を監査しましたところ、いずれも適正であり、決算書のとおり相違ないことを認めます。

宇都宮市民大学運営協議会

会長 饗庭 悦夫 様

平成 30年 3月 31日

監 事

小 針 協 子 

平成 30年 3月 31日

監 事

野 津 正 知 

## 平成30年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

### 1 平成30年度事業の考え方

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組んでいる。

また、本市の社会教育分野における基本計画である「第2次宇都宮市地域教育推進計画」において課題となっている地域における学習成果の活用の促進において、学んだ人材である講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）が学習成果や経験を生かせるよう、市民大学における講座企画立案や講座運営に携わることで活動の充実を図ってきた。

平成30年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による、高度で専門的な内容で講座を実施するとともに、平成30年度改定の「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、一人ひとりが人間力を高めるため、主体的な学習活動に取り組めるよう、多様化する市民ニーズへの対応や、社会的課題、旬の話題を積極的に取り入れるなど、幅広い学習内容で展開することにより受講者満足度の向上や新規受講者の獲得等を図っていく。

### 2 前期講座

#### (1) 合同開講式・公開講座

専門講座受講者・一般市民を対象に、合同開講式・公開講座を開催する。

ア 日 時 平成30年5月25日（金）午後2時～午後4時  
イ 会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 4階  
ウ 内 容 ・合同開講式

・公開講座

演題 宇都宮のまちづくり

～魅力的なまちにするために～

講師 宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授 山島 哲夫氏

#### (2) 専門講座

表1のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）企画講座を5講座（No.1、No.3～No.6）、大学連携講座を1講座（No.2）開催する。

ア 開催期間 平成30年5月28日～平成30年7月20日  
イ 開催回数 5回～7回

【表1】前期専門講座一覧

No.	講座名（開講数） （講座コース）	講師	開催期間	定員
1	悪人か？英雄か？ ～見方を変えると歴史が変わる～ （全7回） （郷土を愛する地域・文化・歴史コース）	栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 学芸員 山本 享史 氏 歴史研究家 高橋 昭夫 氏	5/28 ～7/9	50人
2	【宇都宮共和大学連携講座】 住みやすい都市と環境考える （全6回） （郷土を愛する地域・文化・歴史コース）	宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授 寺内 孝夫 氏 准教授 大石 和博 氏 専任講師 西山 弘泰 氏 宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 高柳 恭子 氏 准教授 桂木 奈巳 氏 専任講師 丸橋 亮子 氏	6/1 ～7/6	30人
3	中世宇都宮一族の文化力 ～「宇都宮歌壇」の成立と和歌をめぐって～ （全6回） （郷土を愛する地域・文化・歴史コース）	立正大学 文学部 教授 渡邊 裕美子 氏	6/5 ～7/10	70人
4	希望と共に生きる ～新しい知識と、生きる力と仲間たち～ （全5回） （今を読み解く現代社会コース）	栃木県立がんセンター 病理診断科 医師 平林 かおる 氏 検査技術科 臨床検査技師 岡田 佑衣子 氏 臨床検査技師 枝 明日美 氏 宇都宮セントラルクリニック放射線科 医師 佐藤 俊彦 氏 済生会宇都宮病院緩和ケア科 医師 粕田 晴之 氏	6/2 ～6/30	50人
5	自然災害にどう対処する？ ～多発する自然災害への備え～ （全7回） （今を読み解く現代社会コース）	株式会社下野新聞社 大田原総局長 論説委員 三浦 一久 氏 NPO法人栃木県防災士会 理事長 稲葉 茂 氏 栃木県立博物館 学芸員 柏村 勇二 氏ほか 気象庁宇都宮地方气象台職員 栃木県県民生活部危機管理課職員 宇都宮市行政経営部危機管理課職員	6/7 ～7/19	50人
6	慈覚大師円仁 ～その魅力を探る～ （全7回） （暮らしを彩る教養コース）	栃木県立博物館 名誉学芸員 千田 孝明 氏 國學院大學栃木短期大学 教授 酒寄 雅志 氏 大慈寺 住職 林 慶仁 氏	6/8 ～7/20	70人

### 3 後期講座

#### (1) 合同開講式・公開講座

専門講座受講者・一般市民を対象に，合同開講式・公開講座を開催する。

ア 日 時 平成30年10月  
イ 会 場 帝京大学等  
ウ 内 容 未定

#### (2) 専門講座

表2のとおり，講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座（No.1～No.4），大学連携講座（帝京大学）（No.6），事務局企画講座【平成29年度講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了生企画講座】（No.5）を実施する。

ア 開催期間 平成30年10月～平成30年12月  
イ 開催回数 未定

【表2】後期専門講座一覧

No.	講座名	開催期間
1	修験の世界 日光山の歴史と信仰 ～再発見 山岳霊場日光山の遺産～ (郷土を愛する地域・文化・歴史コース)	10月～
2	宇都宮の近現代Ⅱ ～戦後史のあゆみ～ (郷土を愛する地域・文化・歴史コース)	11月～
3	老いを笑って暮らすために ～笑いの健康学～ (今を読み解く現代社会コース)	11月～
4	俳句と絵画 ふたつの道の達人「蕪村」を学ぶ ～「蕪村」号は宇都宮から始まった～ (暮らしを彩る教養コース)	11月～
5	【平成29年度講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座 修了生企画講座】(タイトル未定) (コース未定)	未定
6	【帝京大学連携講座】 (タイトル未定) (コース未定)	未定

## 平成30年度宇都宮市民大学収支予算（案）について

## 収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,876,000	1,934,000	△ 58,000	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	2,300,000	2,255,000	45,000	
3 雑収入	1 雑収入	100	250	△ 150	預金利子
合 計		4,176,100	4,189,250	△ 13,150	

## 支出の部

(単位:円)

款	項(目)	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 総務費		343,600	341,600	2,000	
	1 報償費	303,600	303,600	0	委員謝金
	2 需用費	14,000	13,000	1,000	会議茶代等
	3 役務費	26,000	25,000	1,000	開催通知郵送料等
2 事業費		3,832,500	3,847,650	△ 15,150	
	1 報償費	2,182,000	2,306,000	△ 124,000	講座講師謝金
	2 需用費	854,500	542,350	312,150	
	①消耗品費等	465,500	250,550	214,950	講座紙代等
	②食糧費	39,000	30,000	9,000	講師茶代等
	③印刷製本費	300,000	251,800	48,200	パンフレット作成等
	④修繕料	50,000	10,000	40,000	機器修繕料
	3 役務費	236,000	184,900	51,100	
	①通信運搬費	200,000	150,000	50,000	募集パンフレット郵送料等
	②手数料	36,000	29,200	6,800	講師謝金振込手数料等
	③保険料	0	5,700	△ 5,700	講師・Vスタッフ保険代
	5 使用料	200,000	464,400	△ 264,400	館外学習貸切バス料金等
	6 負担金, 補助 及び交付金	360,000	350,000	10,000	専門講座企画運営費
合 計		4,176,100	4,189,250	△ 13,150	